



さとやま

4月に見られるいきもの



今年の冬は気温の低い日が多く春の訪れが遅いかと思っておりましたが、3月に入ると寒の戻りはあったものの暖かい日が多く、一気に春めいてきました。近年では、4月に入るとサクラは満開を過ぎ、下旬には以前はゴールデンウィークに見頃だったフジが写真のように見事に咲きます。

里山エリアではあちこちでハルジオンの花が咲く中、あーむけ橋付近でラプンツェルのなかまであるノヂシャが、ハンノキ広場やトンボの里ではカキドオシの花などが見られます。また里全域で、ツボスミレなどの色々な種類のスミレが次々と咲きます。

トンボの里付近では、メタリックグリーンのアサヒナカワトンボを見かけるようになります。

万灯山山頂では、フデリンドウの花が点々と咲き、変わった形のヒメハギの花を見つけることができます。桜並木付近では、実が食べられるクサイチゴが花をつけます。

そんな少し汗ばむ陽気の4月の里を散策してみませんか。



ヒメジオン



ノヂシャ



カキドオシ



ツボスミレ



アサヒナカワトンボ



フデリンドウ



ヒメハギ



クサイチゴ

里の生き物紹介

アケビ



3月下旬から4月上旬、写真のような花が里のあちこちで見られます。これは、アケビの花です。

アケビは、アケビ科のつる性落葉低木です。茎はつるになって他の樹木などに左巻きにからみつきます。

花は、雌雄異花で、1つの房の基の方に紫色の濃い1～3個の雌花、その先に色が薄い数個の雄花がつきます。3枚の花弁に見えるのはがくで、花弁はありません。雌花は3～9本の雌しべが放射状につき、雄花は6本の雄しべがミカンの房状につきます。花は蜜が出ませんが、花粉を食べに来たハチなどの昆虫に受粉してもらっているようです。

アケビは、咲いている株も花数も多いのですが、なかなか実がなりません。花が終わるとほとんどは落ちてしまいます。その中で一部の雌花の雌しべが残り、子房が成長していきます。普通は1つの花に1～2個ですが、ときには写真のように数個が成長し、バナナの房のような場合もあります。



たくさん実をつける株は数年連続して実がなるようです。左の写真のセンターテラス前の株は、ここ数年多くの実がつきます。しかし、付近の株は実がつきません。同じ個体からの自家受粉では結実しないなどと言われ、栽培するときには別品種の花粉を受粉させるようです。



秋が深まり実が熟すと、淡灰紫色に色付いて縦に割れ、果肉が見えるようになります。果実の口が開くので「あけ実」から名ががついたと言われています。果肉は強い甘味がありますが、多数の黒い種子がジャリジャリするので、種子を吐き出しながら食べることになります。鳥等に種子ごと食べさせて散布させ仲間を増やします。

山形県などでは、ほろ苦い果皮を調理して食べるのだそうです。

里ではアケビによく似た下の写真のような花も見られます。これは、**ミツバアケビ**です。



アケビの葉



ミツバアケビの葉

アケビの葉が、5枚に分かれているのに対し、3枚に分かれていることから名が付きました。また、葉のふちにギザギザがあります。

花は、濃い紫色で、雄花はアケビより数多くがくが小さいです。実は、アケビより太くてずんぐりした姿です。



ミツバアケビの実



アケビ



ミツバアケビ

3月下旬には左の写真のように、冬の間には落葉した枝に新しい葉と蕾が同時に出てきます。

アケビとミツバアケビの交雑種を**ゴヨウアケビ**といいます。葉が5枚に分かれますが、ふちにギザギザがあります。里では

見つけていませんが、付近の雑木林で見かけたことがあります。探してみてください。

アケビの枝の上で下の写真のような姿をしたイモムシを見つけることがあります。

これは、**アケビコノハ**という蛾の幼虫で、アケビのなかまの葉を食べます。写真は身の危険を感じたときの威嚇の姿です。普段は体を伸ばした状態で過ごします。

成虫は枯れ葉に擬態し、果物の汁を吸う害虫として知られています。年に2回発生します。隣の写真は、越冬した成虫がアケビの新芽にとまっているところです。



4月の行事予定

2日(土)	初めてのタケノコ掘りⅠ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員
3日(日)	万灯山へお花見ウォーキングしよう	20名	AM9:30~15:00	高須 桂子
10日(日)	初めてのタケノコ掘りⅡ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員

※注1~この講座は3月12日から受付し、すでに定員に達しました。

5月の行事予定

8日(日)	野鳥のさえずりを聞いてみよう	20名	9:30~11:30	高田 俊洋
15日(日)	やさしい苔玉教室	20名	9:30~11:30	長谷部弥生
22日(日)	里山の稲作体験Ⅰ(田植え) ※注2【予備日:5/29】	30名	9:30~11:30	当園職員

※注2~里山の稲作体験Ⅰ~Ⅲの講座は原則3回の講座のため、少なくとも2回以上受講した方に限り、参加特典として「お米」をプレゼントします。

- ◎ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその家族までとします。なお、定員が6名以下の場合開講しません。
- ◎ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学者扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◎ 当日の天候や新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◎ 原則、参加費は無料ですが、各講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◎ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

編集後記



桜の散る頃には、地震時に堤体が決壊しないよう小草池の耐震工事もあらかた終わって水を溜めます。そうしたら菖蒲池にも水を入れられます。今回は、耐震請負業者から要らなくなったコンクリブロックをたくさん頂いたので、菖蒲池の中に野鳥などから身を守ることができる穴の空いたブロックを並べて棲み家づくりしました。これで小魚たちもひと安心してくれることでしょう。

西尾いきものふれあいの里

- ◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266
- ◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部環境保全課